

稲作情報(Vol.5)

平成30年7月12日
宮城県石巻農業改良普及センター
石巻地方米づくり推進本部
TEL:0225-95-7612 FAX:0225-95-2999
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-n/

7月10日現在の予測では、管内の出穂日は8月6日頃の見込みです

気象経過

◎ 7月上旬も引き続き高温傾向となりました（平均気温：平年差+2.6℃，日照時間：平年比98.8%，降水量：平年比37.6%）。

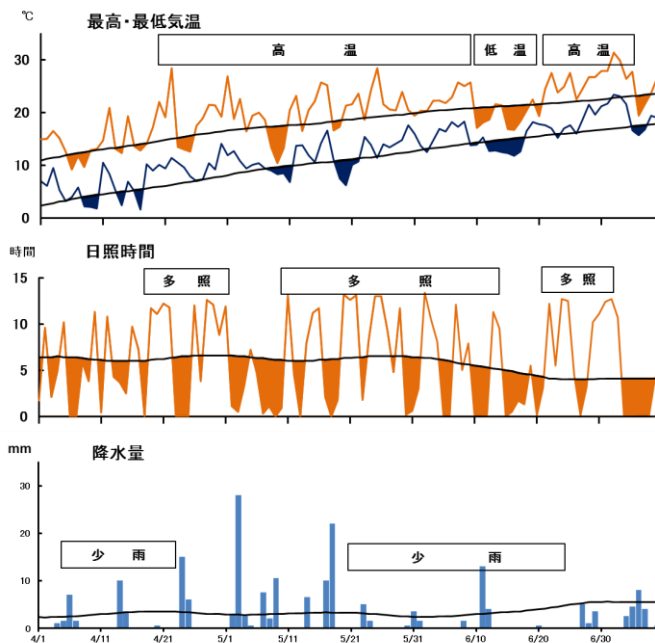


図1 田植え後の気象経過(アメダス石巻)

生育調査ほの生育状況

- ◎ 草丈はひとめぼれとササニシキ共に平年並みとなっています。
- ◎ 茎数はひとめぼれで平年より多くなっており、ササニシキで平年より少なくなっています。
- ◎ 葉色は平年と比べてひとめぼれで濃くなり、ササニシキで薄くなっています。
- ◎ 幼穂長は0.4~0.9mmとなっており、まもなく幼穂形成始期（1mm）となる見込みです。

表1 生育調査ほの調査結果(7月10日現在)

品種	調査ほ場	移植日 (月/日)	草丈(cm)			茎数(本/m ²)			葉数(枚)		葉色(SPAD値)			
			前年比 (%)	平年比 (%)	前年比 (%)	平年比 (%)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	前年差	平年差				
ひとめぼれ	石巻市広瀨	5/5	64.5	114	104	601	120	107	11.6	0.5	0.4	41.8	4.4	4.1
	東松島市小松	5/5	58.2	111	103	607	104	105	11.5	0.7	0.4	38.4	3.0	3.7
	平均	5/5	61.4	113	104	604	111	106	11.6	0.6	0.4	40.1	3.7	3.9
ササニシキ	石巻市桃生町寺崎	5/10	56.0	101	100	508	78	82	11.1	-0.6	0.5	31.8	-6.9	-4.1
	石巻市井内	5/8	58.4	105	101	529	98	99	11.5	0.3	0.2	36.4	-3.7	-1.7
	平均	5/9	57.2	103	100	518	87	90	11.3	-0.1	0.4	34.1	-5.3	-2.9

※平年値は過去5か年平均。

表2 生育調査ほの幼穂長 (7月10日現在)

品種	調査ほ場	幼穂長(mm)		幼穂形成始期		
		前年	平年	本年	平年	
ひとめぼれ	石巻市広瀨	0.8	1.7	4.5	—	7/6
	東松島市小松	0.4	0.9	3.4	—	7/6
	平均	0.6	1.3	3.9	—	—
ササニシキ	石巻市桃生町寺崎	0.9	0.6	0.6	—	7/12
	石巻市井内	0.8	0.6	1.0	—	7/10
	平均	0.9	0.6	0.8	—	—

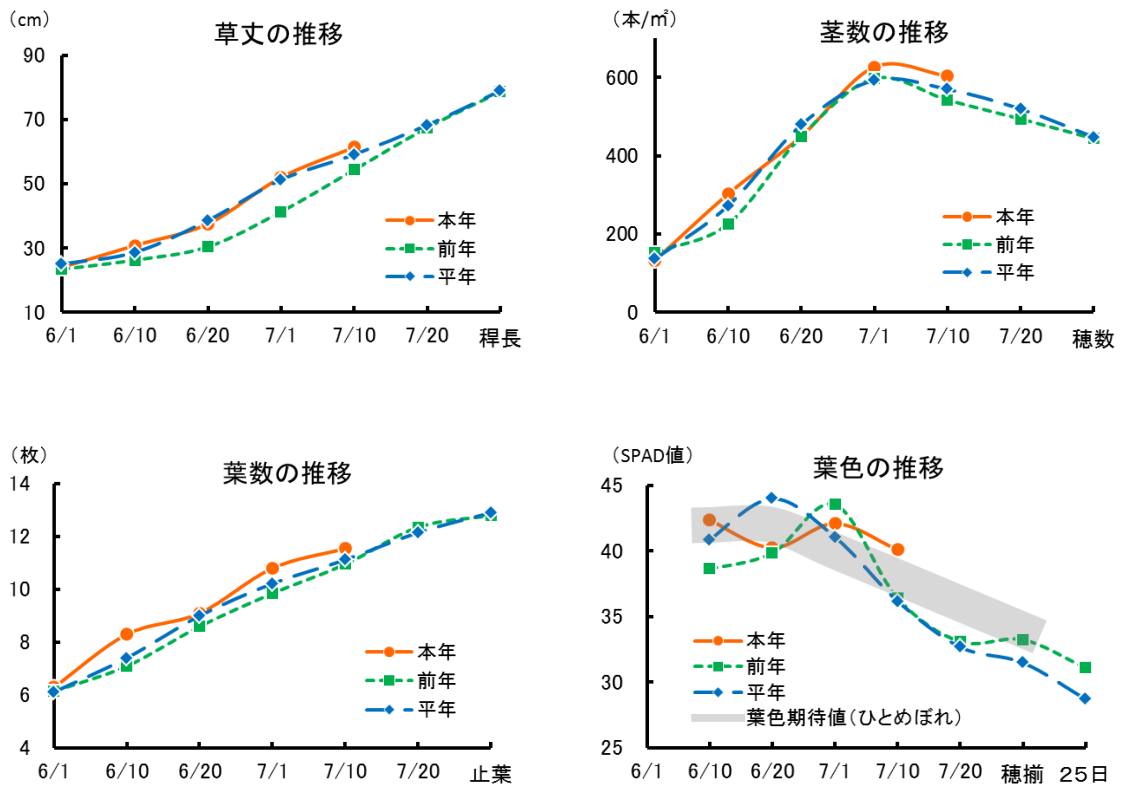


図2 ひとめぼれの生育経過（草丈，茎数，葉数，葉色）

除塩（復旧初年目）調査ほの生育状況

- ◎ 長面ほ場では、移植が遅れたため生育量が少なめです。なお、6月末に隣接ほ場に見られた塩害による生育障害は回復しました。
- ◎ 洲崎ほ場では、生育障害は見られず順調に生育しています。

表3 除塩調査ほの調査結果（7月10日現在）

品種	調査ほ場	移植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)
ひとめぼれ	石巻市長面	5/28	53.6	322	10.7	40.2
	東松島市洲崎	5/17	60.7	589	11.0	42.9

乾田直播展示ほの生育状況

- ◎ 草丈は平年に比べて、高くなっています（平年比111%）。
- ◎ 茎数は平年並みとなっています（平年比99%）。
- ◎ 葉色は平年に比べて、やや淡くなっています（平年差-0.9）。

表4 乾田直播展示ほの生育状況（7月10日現在）

品種	調査ほ場	年度	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)
ひとめぼれ	石巻市 桃生町 寺崎	本年	56.1	498.9	9.4	36.4
		前年差・比	139%	232%	0.8	5.4
		平年差・比	111%	99%	-0.2	-0.9

※平年は平成24年から平成28年の平均

だて正夢展示ほの生育状況

- ◎ 草丈は、ひとめぼれと比べて長くなっています（117%）。
- ◎ 茎数は、ひとめぼれと比べて少なくなっています（78%）。
- ◎ 葉数は、ひとめぼれと同程度となっています（+0.1枚）。
- ◎ 葉色は、ひとめぼれより濃くなっています（+4.1）。
- ◎ 幼穂長は1.7mmであり、幼穂形成始期（1mm）になっています。

表5 だて正夢展示ほの生育状況(7月10日現在)

品種	調査ほ場	移植日 (月日)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)	幼穂長 (mm)
だて正夢	東松島市 小松	5/3	68.2	475	11.6	42.5	1.7
ひとめぼれ		5/5	58.2	607	11.5	38.4	0.4

今後の管理

1 生育ステージの把握

◎ 今後の肥培管理を適期に行うためにも、ほ場毎の幼穂長を確認し、生育ステージを把握しましょう（表5）。幼穂は、主茎をよく切れるカッターで下から縦半分に割ると1mm程度から肉眼で確認できます。

◎ 生育ステージの判断に当たっては、表6も参考にしてください。7月10日現在で、北部平坦地帯、仙台湾岸地帯の中生品種の出穂期は8月6日頃、三陸沿岸では8月13日頃と予想されます。

表6 幼穂形成期と減数分裂期の目安

項目		出穂前 日数	幼穂長 (cm)	葉耳間長 (cm)
生育ステージ				
幼穂形成始期		25日	0.1~0.2	—
減数分裂期	始期	15日	3~4	-10.0
	盛期	12日	8~10	±0
出穂期		0日	16~18	—

表7 地帯区別の生育ステージの予測(7月10日現在)

地帯区分	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
北部平坦	7/9 ~ 7/15	7/19 ~ 7/25	8/3 ~ 8/9
仙台湾岸	7/9 ~ 7/15	7/19 ~ 7/25	8/3 ~ 8/9
三陸沿岸	7/16 ~ 7/22	7/26 ~ 8/1	8/10 ~ 8/16

※ 対象品種:「ひとめぼれ」「ササニシキ」

2 水管理 ～ 出穂前までは間断かん水 ～

- ◎ 幼穂形成始期（出穂25日前）頃になったら中干しを終了し、出穂前までは間断かん水とするのが基本の水管理となります。

【復元田や生育過剰で倒伏が心配されるほ場では】

- 気温の上昇に伴い地力窒素の発現量が増加し、急激に莖数増加しやすいので、出穂前までは飽水管理（足跡の水がなくなったらごく浅めに入水し、土壤の湿潤状態を保つ）を行って根の健全化と莖の充実を図り、倒伏防止に努めましょう。

【直播栽培では】

- 移植栽培より7～10日程度遅く幼穂形成期に達します。表面播種による湛水直播や生育過剰な直播ほ場は幼穂形成始期までしっかりと中干しを行い、無効分げつの抑制、倒伏防止に努めましょう。

【除塩（復旧初年目）ほ場では】

- 除塩した水田では、田面を乾かすと下層から塩分が上昇し、塩害の症状がでる場合があるので、間断かん水を行う際、亀裂が入るほど乾かさないようにします。
- 塩害による収量低下の影響を最も受けやすい時期は、減数分裂期（穎花の退化、花粉形成の抑制等）と出穂開花期（出穂期の遅延、受精の抑制等）です。出穂前15日頃から出穂後15日頃までは水を切らさないよう注意しましょう。

【低温時の水管理】

- 幼穂形成期から出穂・開花期にかけては、最も低温の影響を受けやすい時期です。特に、日平均気温20℃以下または最低気温17℃以下の低温が続くと予想された時は、深水管理を徹底してください。
- 週間天気予報などを確認し、低温となる予報が発表されたときには、すぐに深水管理ができるよう準備をしておきましょう。
- 深水の目安

幼穂形成期（出穂前25～15日）：水深10cm

減数分裂期（出穂前15～10日 / 幼穂長3～12cm）：水深17～20cm

（※ この水深を確保できない場合でも可能な限り深水にする。）

3 減数分裂期追肥

◎ 今後の極端な葉色低下は、窒素栄養状態の悪化を示しています。玄米品質の低下を招く恐れがあるので、次の「追肥のポイント」を参考に、必要に応じた肥培管理に努めましょう。

【追肥のポイント】

□ 減数分裂期追肥の目的

- ・一穂粒数の減少防止と登熟良化。
- ・過剰施用や施肥の遅れは玄米タンパク含有率を高めるので避ける。

□ 品種に適した追肥時期・追肥量

- ・倒伏しやすいササニシキは減数分裂期追肥が基本。
- ・まなむすめ、つや姫は幼穂形成期追肥が基本（前号参照）

表8 減数分裂期の生育量の目安(目標値)と追肥量

品 種	茎数 (本/m ²)	葉色 (SPAD値)	窒素成分追肥量 (kg/10a)	施用時期
ひとめぼれ	450~500	35~37	1.0	出穂前 15~10日頃
ササニシキ	550~580	32~34	1.0~1.5	
だて正夢	410~450	35~39	[幼穂形成期に追肥を行っていない場合] 2.0 [幼穂形成期に追肥を行っている場合] 1.0	

※ 環境保全米では化成肥料窒素の施肥量の上限が決められているので注意してください。

□ 基肥やほ場の地力を考慮

- ・基肥一発肥料を使用した場合、追肥は基本的に不要。
- ・黒泥や強グライ土、復元田では、生育後半に地力窒素が出るので注意！

□ 有機質を含む肥料を追肥するときは

- ・有機入り化成肥料は通常の化成肥料より肥効が遅く、また有機質肥料の割合が大きいほど肥効の発現が遅くなるので、やや早めに追肥する。

病害虫防除

〔発生量などの予報については、宮城県病害虫防除所発表発生予察情報(7/5)より〕

1 いもち病 ～ 葉いもち発生量の予報は「**平年並**」～

◎ 葉いもち発生量は「平年並」、全般発生期は平年よりやや早い7月第3半旬と予想されています。

◎ 上位葉のいもち病斑は、穂いもちの伝染源になります。これからの時期は、箱施用剤の効果が低下し始めるとともに、追肥はいもち病抵抗性を一時的に低下させるので、水田の見回りをこまめに行い、葉いもちの早期発見に努めましょう。

2 紋枯病 ～ 発生量の予報は「**やや多**」～

◎ 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みが多い予報となっています。紋枯病は稔実歩合と千粒重の低下による減収と、白未熟粒を増加させます。県で示している要防除水準（穂ばらみ期、発病株率18%：ひとめぼれ）を参考に防除しましょう。

3 稲こうじ病 ～ 発生量の予報は「平年並」～

- ◎ 穂ばらみ期に低温で降雨日数が多いと発生量が多くなります。また、晩生品種や葉色の濃い水田では多発しやすいので注意するとともに、前年の発生量が多かったほ場では、伝染源量が多く発生しやすいので、穂ばらみ期に予防防除を実施しましょう。
- ◎ 銅剤による防除は、出穂20～10日前が散布適期です。葉が濡れた状態や出穂10日前以降に使用すると薬害が発生しやすいので注意してください。

4 斑点米カメムシ類 ～ 発生量の予報は「平年並」～

- ◎ 斑点米カメムシ類の発生量は「平年並み」、発生時期は平年よりやや早い7月第4半旬と予想されています（7月5日 宮城県病害虫防除所発表）。
- ◎ 雑草や牧草の刈取りは早めに実施し、出穂の10日前までには終わらせましょう。
- ◎ 出穂直前の草刈りは、カメムシ類を水田に追い込むことになるので避けましょう。
- ◎ 薬剤防除の適期が早まると予想されるので、早めの準備を心がけましょう。
- ◎ イヌホタルイ、ノビエ等が発生した水田で除草できなかった場合は、1回目の薬剤散布時を「出穂始から穂揃期」に早めることで、被害を軽減できます。

5 コバネイナゴ ～ 発生量の予報は「多」～

- ◎ 今年はコバネイナゴが多くみられます。体長が1.5cm程度に大きくなると本田に侵入します。
- ◎ 大きくなってからの薬剤防除は効果が低下しますので、速やかに防除を行ってください。